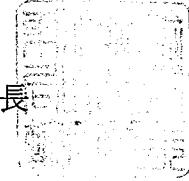




山運整第495号
平成27年11月4日

公益社団法人山形県トラック協会会長 殿

東北運輸局山形運輸支局長



タイヤ交換時期における大型自動車の車輪脱落事故防止について（注意喚起）

標記について、平成27年10月30日付け東自保第64号、東自整第101号により東北運輸局自動車技術安全部長から別添のとおり通達があったので了知されるとともに、降雪期を迎えタイヤ交換を行うに当たって、貴傘下会員の大型自動車使用者に対して下記事項について注意喚起を行い、大型自動車のホイール・ボルト折損による車輪脱落事故防止に万全を期すようお願いいたします。

記

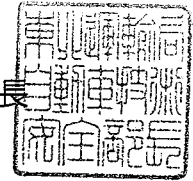
1. ディスクホイールを取外した際には、ディスクホイール、ホイール・ボルト及びナットの亀裂や損傷の有無等、別添「ストップ!!ザ・車輪脱落事故」を参考に、「ディスクホイールを取外して点検」を確実に行うこと。
2. スチールホイールからアルミホイール又はその逆に履き替える場合には、それぞれ適合するホイール・ボルト及びナットを使用すること。
3. ホイール・ナットを締め付ける際には、トルクレンチを用いるなどにより、規定トルクで確実に締め付けること。
4. タイヤ交換後、50kmから100km走行後を目安に増し締めを行うこと。
5. 日常点検において、ディスクホイールの取付状態が不良でないことの点検を確実に行うこと。



東自保第 64号
東自整第 101号
平成27年10月30日

東北運輸局山形運輸支局長 殿

東北運輸局自動車技術安全部長



タイヤ交換時期における大型自動車の車輪脱落事故防止について（注意喚起）

大型自動車のホイール・ボルト折損による車輪脱落事故防止については、機会あるごとに注意喚起してきたところですが、平成26年度は全国で45件発生し3年連続して増加しています。その約4割の17件が東北運輸局管内の大型自動車により発生しているという極めて憂慮すべき事態となっています。

また、平成27年5月には青森県内のバス事業者による車輪脱落事故も発生しております。車輪の脱落は、路上故障による他の交通の妨げとなるばかりでなく、歩行者や他の車両の乗員の命に係るなど、重大な事故を引き起こすことにもなりかねません。

平成26年度に東北運輸局管内で発生した17件の月別発生状況を見ると、11月から2月までが12件と7割を占めており、タイヤ交換後1ヶ月以内の発生が12件と集中しております。

つきましては、降雪期を迎えタイヤ交換を行うに当たって、関係団体及び大型自動車使用者に対して下記事項について注意喚起を行い、大型自動車のホイール・ボルト折損による車輪脱落事故防止に万全を期すようお願いします。

記

1. ディスクホイールを取外した際には、ディスクホイール、ホイール・ボルト及びナットの亀裂や損傷の有無等、別添「ストップ!! ザ・車輪脱落事故」を参考に、「ディスクホイールを取外して行う点検」を確実にすること。
2. スチールホイールからアルミホイール又はその逆に履き替える場合には、それぞれ適合するホイール・ボルト及びナットを使用すること。
3. ホイール・ナットを締め付ける際には、トルクレンチを用いるなどにより、規定トルクで確実に締め付けること。
4. タイヤ交換後、50kmから100km走行後を目安に増し締めを行うこと。
5. 日常点検において、ディスクホイールの取付状態が不良でないことの点検を確実にすること。



—大型車をご使用の皆様へ車輪脱落事故防止のお願いです。

ストップ!! ザ・車輪脱落事故

大型車の車輪脱落事故ゼロへ

車輪の脱落事故が起きています
大型車・車輪脱落事故

412件!

平成 15 年 1 月～平成 26 年 12 月 (年間約 34 件)

車輪が脱落するまでには必ず予兆があります。
日頃の点検・整備で車輪脱落事故を防止。
ご自身による車輪まわりの点検をお願いします。

車輪脱落事故の多くは、ホイール脱着後 1 か月以内に起きています。正しい脱着作業をお願いします。



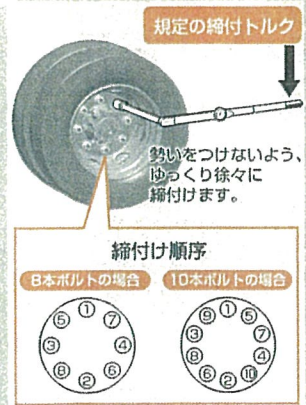
車輪の脱落は、路上故障や他の交通の妨げとなるばかりではなく、歩行者や他の車両の乗員の命に係わるなど、場合によっては重大な事故を引起し、社会的信頼を損なうことにもなりかねません。

安全確保のために、日頃から、正しい点検・整備の実施をお願いします。
あなた自身による、正しい点検・整備の実施が重要です。

車輪脱落を防ぐ、4つのポイント

確実な締付け

締付け方式には、球面座で締付ける JIS 方式と平面座で締付ける ISO 方式があります。規定の締付けトルクで確実に締付けます。



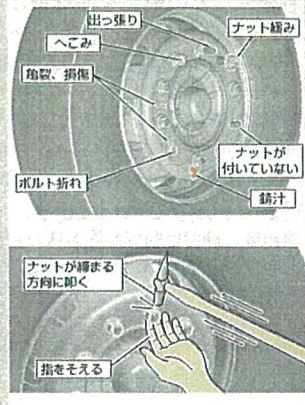
増し締めの実施

締付け後は初期なじみによってホイールナットの締付け力が低下します。50～100 km 走行後を目安に増し締めを行います。



日常の点検

一日一回、運行の前に、ホイールボルト、ナットを目で見て、さわって点検します。異常を発見したら直ぐに整備工場へ。



ホイールの履き替え

スチールホイール、アルミホイールの履き替えには、それぞれ適合するホイールボルト、ナットの使用が必要です。必ず確認してください。



詳しい情報は… 日本自動車工業会 HP <http://www.jama.or.jp/user/>
日本自動車車体工業会 HP <http://jabia.or.jp/use/trailer/index.php>
日本自動車タイヤ協会 HP <http://www.jatma.or.jp/tekisei/>

国土交通省

(一般社団法人) 日本自動車工業会 いすゞ自動車 / 日野自動車 / 三菱ふそうトラック・バス / UD トラックス
(一般社団法人) 日本自動車車体工業会 トレーラ部会
(一般社団法人) 日本自動車タイヤ協会



大型トラック(トレーラ)・バスのホイールボルト関係の点検内容

ー大型車：車両総重量 8 トン以上のトラック(トレーラ)または 乗車定員 30 人以上のバス

日常点検

1 目視での点検

- ホイールナットの脱落やホイールボルトの折損はないか。
- ホイールやホイールボルト、ナットのまわりに錆汁がでた痕跡はないか。
- ホイールナットから突出しているボルトの長さの不揃いはないか。
- ホイールに亀裂や損傷がないか。

2 点検ハンマなどを用いての点検

- ボルトの折損やナットの緩みがないか、ホイールナットの下側に指をそえて、点検ハンマなどでナットの上側面を叩いたときに、指に伝わる振動が他のホイールナットと違ったり、濁った音がしないか。

3 か月点検

1 一つのナットで締付ける方式の緩み点検

- トルクレンチを用いるなどにより、ホイールナットを規定のトルクで締付けます。

2 インナー、アウターのナットで締付ける方式の緩み点検

- 最初にボルトの半数(一個おき)のアウターナットを一旦緩め、インナーナットをトルクレンチを用いるなどにより規定のトルクで締付けます。
- 次に、緩めたアウターナットを、トルクレンチを用いるなどにより規定の締付けトルクで締付けます。
- 続いて、残りの半数のホイールボルトのアウターナット、インナーナットについても同様の作業を繰り返します。

12 か月点検

1 ディスクホイールを取外して行う点検

- ホイールボルトやナットに亀裂や損傷がないか、著しい錆の発生がないか。
※ワッシャー(座金)付きナット(ISO方式)では、ワッシャーがスムーズに回転するかも点検。
- ホイールボルトに伸びはないか。
- ボルト、ナットのねじ部に「つぶれ、やせ、かじり」などの異常はないか。
- ホイールのボルト穴、かざり穴のまわりや溶接部に亀裂および損傷がないか、ホイールナットの当たり面に亀裂や損傷、摩耗がないか。
- ホイールのハブへの取付面、合わせ面に摩耗や損傷がないか。

2 ディスクホイールを取付ける際に行う点検

- ホイールの取付面、合わせ面、ホイールナットの当たり面、ハブ取付面、ボルト、ナットの錆やゴミ、泥、追加塗装などの異物を取除きます。
- ホイールボルト、ナットに指定の潤滑剤を薄く塗布します。(✓)
・JIS方式の場合…ボルト、ナットのねじ部および座面(球面座)部に塗布
・ISO方式の場合…ボルト、ナットのねじ部およびナットとワッシャーとのすき間に塗布
(※ホイールとの当たり面には塗布しない)
- (△)ドライ方式(潤滑剤を塗布せず締付ける方式)の車両では、油分の塗布は厳禁です。
- ホイールナットの締付けは、対角線順に2~3回に分けて行い、最後にトルクレンチを用いるなどにより規定のトルクで締付けます。
※インパクトレンチで締付ける場合は、締付け時間や空気圧などに留意し、締め過ぎないように十分注意します。最後は、トルクレンチを用いるなどして規定のトルクで締付けます。

締付け不足、締め忘れ防止のため、作業終了後、(規定のトルクで)確実に締付けたことを確認するようお願いします。

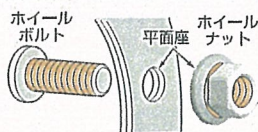
- 50~100 km走行後を目安に、増し締めを行います。

締付け方式

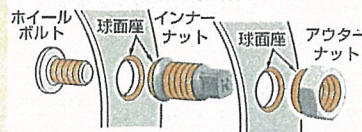
ホイールの締付け方式には、球面座で締付ける JIS 方式と、平面座で締付ける ISO方式があります。大型トラック・バスでは「排出ガス規制ポスト新長期規制適合」車から、左右輪・右ねじとする「新・ISO方式」を採用しました。

アルミホイール/スチールホイールの履き替えには、それぞれ適合するボルト、ナットの使用が必要です。

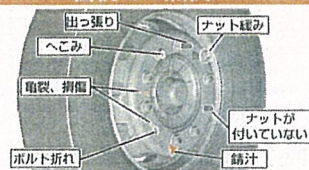
(後輪ダブルタイヤの締付け構造)
ISO方式(8穴、10穴)



JIS方式(6穴、8穴)



目視での点検



点検ハンマなどを用いての点検

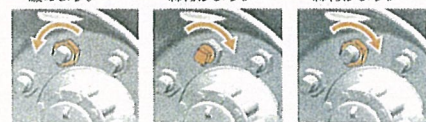


ねじの締付け方向を確かめて締付けます

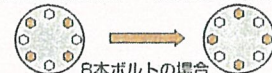


JIS方式ダブルタイヤの締付け手順

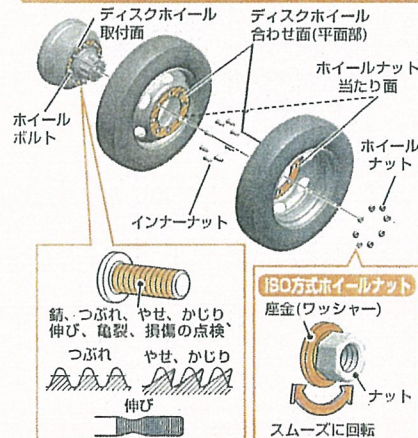
①アウターナットを ②インナーナットを ③アウターナットを 緩めます。 締付けます。 締付けます。



この図は右側タイヤの場合です。
(最初に半数を点検) (次に残りの半数を点検)



ホイール、ハブ、ボルト、ナットの点検箇所



ディスクホイールの点検箇所

